

令和4年度 光明中学校 全国学力・学習状況調査 結果分析

【調査日】令和4年4月19日（火）

【調査内容】

〈教科に関する調査〉国語、数学、理科

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

〈学習状況調査〉

生徒質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問）

学校質問紙調査

【調査結果】〈各教科に関する調査の結果 概要〉

（概要）今年度実施された各教科において、本校生徒の平均得点は、奈良県の平均得点とほぼ同様の結果であった。

○学習に取り組む姿勢

学校での教科の学習において、PC・タブレットなどのICT機器を積極的に使っている生徒の割合（ほぼ毎日と週3回以上の回答合計 本校86% 奈良県46%）や、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている割合（ほぼ毎日と週3回以上の回答合計 本校64% 奈良県29%）、自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している生徒の割合（本校61% 奈良県57%）が、やや高かった。

理科で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てたり（本校56% 奈良県50%）、観察や実験の結果をもとに考察したりする（本校78% 奈良県69%）など、自分で考え、工夫しながら学習に取り組んでいる様子がみられた。

○課題

各教科で学んだことが将来役に立つかという質問に対して、肯定的な回答の

割合（3科平均で本校は66%、奈良県は73%）、各教科の学習が大切だと思うかという質問に対しての肯定的な回答の割合（3科平均で本校76%、奈良県83%）について、向上が必要であり、日々の生活と関連付いた授業の創造が求められている。

【調査結果】〈質問紙調査の結果 概要〉

○朝食を毎日食べたり、決まった時間に就寝、起床するなどの生活のリズムがしっかりできている生徒の割合はおよそ8割となっている。

○携帯電話、スマートフォンなどの使い方について、家の人と約束をし、守っている生徒は66%で、昨今、生徒の生活に影響を与えているこれらの機器の使い方やインターネット使用時のマナーや危険性について、学校と保護者が連携した粘り強い指導が、今後、ますます重要となっていく。また、スマートフォンやPCを使って、SNSやゲームをしている生徒の割合、時間は、県の平均よりはやや低いですが3時間以上行っている生徒も3割程度おり、課題となっている。このことについても、ICT機器への自律した向かい方についての指導を進めていかななくてはならない。

○自分にはよいところがあるかについて、肯定的な回答の割合は、79%（県74%）で、自己肯定感のある生徒の割合は比較的多い。

○将来の夢や目標をもっていると答えた生徒は65%で、県平均と同様である。学校として、キャリア教育の取組は進めているが、今後も充実を図っていく。

○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると答えた生徒は、58%で、県（61%）よりやや低くなっている。達成感を得られる教育活動を進めていきたい。

○いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した生徒は9割を超えるが、これについては、限りなく100%を目指していかななくてはならない。あらゆる教育活動において、いじめを許さない、誰もが楽しいと思える学校づくりを行っていききたい。

【調査結果全般について】

およそ3年続くコロナ禍で、学校行事の縮小や中止があるなど、小学校から中

学校にかけて、生徒同士が協力して行う活動や、活発に自分の意見や思いを伝えあう授業などに制限がある中、友だちと協力するのは楽しいか（肯定的回答85%）、人が困っている時、進んで助けるか（同85%）、今住んでいる地域の行事に参加しているか（同42%）、などの肯定的な答えがやや少なくなっているように思われる。徐々に学校生活の制限も緩和してきていることから、あらためて子どもたちの将来に向けての、人とのつながりを大切にする教育を行っていく必要があると強く思う。

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、地域の方々と連携をとりながら、授業や学校行事等の在り方など、様々な面について改善を行うとともに、課題に合わせた取組を行っていきたい。